

# 川根本町立中川根第一小学校 古代体験授業レポート

静岡県埋蔵文化財センター

平成31年2月14日(木)



2月14日(木)、川根本町立中川根第一小学校を訪問、6年生の皆さんと「石器(黒曜石)の試し切り」「土器の分類」「火起こし」の古代体験に挑戦しました。

川根本町は、遮光器土偶が出土した歴史深い里、そんな地で学んできた小学校での「歴史」学習のしめくりとして、本物の石器や土器に触れたり、火起こしを体験し、古代の人々の暮らしに触れる学習をしました。中学校に進学しても歴史学習に興味関心をもって取り組んでくれることを期待しています。

## ◎石器(黒曜石)試し切り体験



3つの時代(縄文・弥生・古墳)の土器についての説明を受け、本物の土器片をみんなで分類してみました。それぞれの時代の土器の特徴や違いを実際に手で触れながら選別分類に挑戦しました。

黒曜石の石器を使って、紙や葉っぱを切る体験をしました。とても、よく切れたことに驚いていました。また、昔の人々は鋭く尖る石を探し、長野県や伊豆諸島まで出かけて行き石器として使用しています。それが、黒曜石。自然が作り出したガラスのような石の塊でした。

## ◎火起こし体験



しゃこうきどくう  
「遮光器土偶」  
(昭和27年)  
上長尾遺跡より



実際に挑戦してみると、火を起こすことは大変でした。最初は、なかなか火が付きませんでした。みんなで協力し、コツを覚えると、次々と火を起こすことができました。煙が目にしみてつらかったけれど、昔の人々の苦労や工夫を感じることができました。私たち人類は、火を使うことで、明るく・暖かく、こわい動物におそわれたりせずに暮らすことができるようになったばかりでなく、煮たり焼いたり食物をおいしく食べることもできるようになりました。